

東邦音楽大学・東邦音楽短期大学  
自己点検・自己評価報告書 (第14号)

(令和3年度実施事業)

－建学の精神を踏まえ教育改革に取り組み、  
世界基準で音楽人を育てる－

令和4年9月

学校法人 三室戸学園

東邦音楽大学・東邦音楽短期大学自己点検・自己評価  
報告書の作成に当たって

東邦音楽大学・東邦音楽短期大学は、それぞれの学則に「教育研究活動等の状況について自ら点検・評価を行う」ことを定めています。

今回実施した自己点検・自己評価は、令和3年度に実施した事業を対象としています。

また、実施に当たっては、事業計画における重点項目に焦点を当て、本学の教育研究等が、「音楽芸術研鑽の一貫教育を通じ、情操豊かな人格の形成を目的とする」という本学の建学の精神に沿って実施されているか、三つのポリシー（アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシー）を起点とした内部質保証が行われ、その結果が教育の改善・向上に反映されているかなどの観点から自己点検・自己評価を行うこととしました。

また、客観性のある評価を行うため、本学園の役員・教職員以外の方に評価を行っていただきました。

少子高齢化など社会的状況が大きく変化する中、本学園が取り組むべき課題は少なからずありますが、東邦音楽大学・東邦音楽短期大学は、今後も継続的に教育研究等の充実・強化に取り組み、教育研究等の質をこれまで以上に高め、有為な人材の育成に貢献して参ります。

令和4年9月

東邦音楽大学・東邦音楽短期大学  
学長 三室戸 東 光

## 目 次

1	東邦音楽大学・東邦音楽短期大学自己点検・自己評価報告書作成者	1
2	東邦音楽大学 教育改革への取り組みに関する評価表	2
3	令和3年度東邦音楽大学における実施事業の概要（評価判定項目別）	3
4	東邦音楽短期大学 教育改革への取り組みに関する評価表	4
5	令和3年度東邦音楽短期大学における実施事業の概要（評価判定項目別）	5
	<b>【令和3年度事業報告書】</b>	6
I	法人の概要	6
II	事業の概要	8
III	項目別取組状況	8
1	教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置	8
	（1）大学及び短期大学等の教育に関する目標を達成するための措置	8
	（2）附属学校等に関する目標を達成するための措置	10
	（3）研究に関する目標を達成するための措置	10
	（4）社会連携及び社会貢献に関する目標を達成するための措置	10
2	業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置	11
	（1）組織運営の改善に関する目標を達成するための措置	11
	（2）財務内容の改善に関する目標を達成するための措置	12
	（3）施設設備整備、安全管理及び法令順守等に関する目標を達成するための措置	12
	（4）自己点検・自己評価及び情報公開等に関する目標を達成するための措置	13
	（5）主な演奏会等実施一覧	14
	（6）フォトギャラリー	15

令和4年度自己点検・自己評価関係委員会名簿

○ 自己点検・自己評価特別検討委員会

委員長	三室戸 東 光				
委員	山崎 明 美	高橋 幸 雄	遠山 菜穂美		
	佐藤 泰 弘	大場 文 惠	宮野 陽 子		
	粕谷 宏 美	木下 容 子	吉野 正 巳		
	江沢 博 昭	山岡 香 苗	杉村 聖 治		

<大学自己点検・評価部会>

委員長	高橋 幸 雄				
副委員長	遠山 菜穂美				
委員	粕谷 宏 美	山崎 明 美	中島 裕 紀		
	木下 容 子	伊藤 和 広	國谷 尊 之		
	益田 善 太	大熊 信 彦	石橋 裕		
	佐藤 泰 弘	山岡 香 苗	江沢 博 昭		
	吉野 正 巳	[田中 健 一]	[古 曳 貴 之]		

<短期大学自己点検・評価部会>

委員長	國谷 尊 之				
副委員長	高橋 幸 雄				
委員	小林 律 子	岩間 丈 正	岩見 真佐子		
	井上 淳 司	江沢 博 昭	吉野 正 巳		
	[吉富 浩 二]	[古 曳 貴 之]			

東邦音楽大学 教育改革への取組みに関する評価表  
(令和3年度実施事業分)

○ 評価

本学の建学の精神に沿って実施されているか、三つのポリシー（アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシー）を起点とした内部質保証が行われ、その結果が教育の改善・向上に反映されているかなどの観点から、下記により点数を記入。

- ・教育改善が大きく進んでいる…… 5
- ・教育改善が概ね進んでいる……… 3
- ・教育改善が遅れている…………… 1
- ・教育改善が順調に進んでいる……… 4
- ・教育改善がやや遅れている……… 2

評価校	東邦音楽大学									
評価者	(外部評価) 和光市教育委員会教育部長 寄 口 昌 宏					(自己評価) 自己点検・自己評価特別検討 委員会大学部会				
評価項目	評価点数					評価点数				
1 入学者選抜	5	④	3	2	1	5	④	3	2	1
2 カリキュラムの 内容・学修方法・ 学修支援	5	④	3	2	1	5	④	3	2	1
3 学修成果	5	④	3	2	1	5	④	3	2	1
4 教員組織	5	4	③	2	1	5	④	3	2	1
5 施設・設備	5	④	3	2	1	5	④	3	2	1
6 社会貢献	⑤	4	3	2	1	⑤	4	3	2	1

○ 外部評価のコメント

埼玉県を代表する音楽大学として、県内自治体と連携して文化芸術振興や地域課題解決に取り組むことを期待しています。それが入学者選抜（学生獲得）や社会貢献といった視点における貴大学の繁栄にもつながるのではないかと考えます。

※ 実施事業から、項目別に2・3点を掲載したもの

### 1. 入学者選抜

- ・ 学生獲得に向けたアクションプランに基づき、行動計画(イベント年間スケジュール)を策定し募集活動を行った。
- ・ オープンキャンパスを複数回開催するとともに、個別進学相談や無料体験レッスンを実施するなど、志願者のニーズに対応する工夫をした。
- ・ 入学者選抜は、総合型選抜のほか、指導者推薦型・学校推薦型・卒業生推薦型など様々な経験や意欲に対応する選抜区分を設けて学生募集を行った。

### 2. カリキュラムの内容・学修方法・学修支援

- ・ 新型コロナウイルス禍対応で得た遠隔授業のノウハウを活用し、Zoom等を活用したオンライン授業を実施した。
- ・ 授業科目のカリキュラムマップとカリキュラムツリーを作成するとともに、入学者全員に対して楽典の課題を与えて、提出を義務付けるなど、音楽大学での学びに不可欠な基礎理論を確実に身に付けさせることとした。
- ・ 学生相談等をより速やかに対応できるように、学生サポート情報をWebでのオンライン配布とした。

### 3. 学修成果

- ・ 「東邦ウィーンアカデミー」について、現地での研修の代替えとしてウィーン国立音楽大学教授などの教授陣の協力のもとビデオレッスンをはじめレポート課題や演奏動画を記録したビデオ講座などを実施した。また、同科目受講者のうち令和3年度末に卒業する学生には、国際交流推進特別奨学金の給付を行った。
- ・ 海外演奏旅行について、ハンガリーへの渡航ができないことから、国内の演奏会場付の宿泊場所を確保し、リハーサルを実施・本番を収録して、ハンガリー現地及び在日大使館でご覧いただき、好評をいただいた。
- ・ 令和4年3月に卒業する大学生(48名)のうち就職を希望する者20名に対し18名が就職した(就職率90%)。

### 4. 教員組織

- ・ 授業方法等の改善・向上に関して、他大学の事例等を活用するため、外部講師として上山典子氏(静岡文化芸術大学准教授)を招き、「静岡文化芸術大学における教育改革・地域連携・グローバル化の取り組み」をテーマにFD/SD研修を実施した。
- ・ 研究推進・倫理委員会を4回開催し、研究推進方策等について関係部門との連携などの検討を進めるとともに、学園ウェブサイトの「教育研究者一覧」の掲載内容の充実に努めた。
- ・ 科学研究費の採択者への研究支援を進めるとともに、教員の研究意欲の向上に努めることとした。

### 5. 施設・設備

- ・ 川越・文京キャンパスの「無線LAN整備計画」(令和3~5年度)の計画のもと、整備を進めた。
- ・ 川越と文京のキャンパス間を結ぶ情報連携システムの基幹サーバーを更新し、システムのバージョンアップを行い業務効率の向上のほか、セキュリティの強化を図った。
- ・ 14号館(グランツァール)の楽屋系統空調設備更新及び冷温水発生機の修繕を行った。また、3~13号館系統の給水ポンプ交換工事を行った。

### 6. 社会貢献

- ・ 和光市など地元及び近隣地域と連携し、オペラ彩第38回定期公演「カルメン」には、大学・短期大学・第二高校の学生・生徒・教員が出演した。
- ・ 「埼玉県ふじみ野市との基本協定」(平成22年締結)に基づき、ふじみ野市小学校音楽鑑賞教室を実施した。
- ・ 東京都北区において、クラシックコンサート~東京さくらトラム沿線の文化と景観を後世に残す~を、附属中・高等学校が、ユネスコパートナーシップ世界遺産トーチランコンサート協会と共催で、大学・短期大学の教員の協力により実施した。

東邦音楽短期大学 教育改革への取組みに関する評価表  
(令和3年度実施事業分)

○ 評 価

本学の建学の精神に沿って実施されているか、三つのポリシー（アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシー）を起点とした内部質保証が行われ、その結果が教育の改善・向上に反映されているかなどの観点から、下記により点数を記入。

- ・教育改善が大きく進んでいる…… 5
- ・教育改善が概ね進んでいる……… 3
- ・教育改善が遅れている…………… 1
- ・教育改善が順調に進んでいる……… 4
- ・教育改善がやや遅れている……… 2

評価校	東邦音楽短期大学									
評価者	(外部評価)					(自己評価)				
	文京区アカデミー推進部 アカデミー推進課長 矢 島 孝 幸					自己点検・自己評価特別検討 委員会短期大学部会				
評価項目	評価点数					評価点数				
1 入学者選抜	⑤	4	3	2	1	5	④	3	2	1
2 カリキュラムの内容・ 学修方法・学修支援	⑤	4	3	2	1	⑤	4	3	2	1
3 学修成果	⑤	4	3	2	1	⑤	4	3	2	1
4 教員組織	⑤	4	3	2	1	⑤	4	3	2	1
5 施設・設備	⑤	4	3	2	1	⑤	4	3	2	1
6 社会貢献	⑤	4	3	2	1	⑤	4	3	2	1

○ 外部評価のコメント

アクションプランに基づき、計画的に入学者選抜が実施されている。文京区においては、アカデミー推進計画を策定し、多様な学習環境づくりを推進しており、長期履修制度等により、様々な方への学びの機会を提供されていることは高く評価されるべきと考える。 教育研究活動、ICT 環境の整備、自治体との連携による文化芸術活動が積極的に実施されている。

※ 実施事業から、項目別に2・3点を掲載したもの

### 1. 入学者選抜

- ・ 学生獲得に向けたアクションプランに基づき、行動計画(イベント年間スケジュール)を策定し募集活動を行った。
- ・ オープンキャンパスを複数回開催するとともに、個別進学相談や無料体験レッスンを実施するなど、志願者のニーズに対応する工夫をした。
- ・ 入学者選抜は、総合型選抜のほか、指導者推薦型・学校推薦型・卒業生推薦型など様々な経験や意欲に対応する選抜区分を設けて学生募集を行った。

### 2. カリキュラムの内容・学修方法・学修支援

- ・ 新型コロナウイルス禍対応で得た遠隔授業のノウハウを活用し、Zoom等を活用したオンライン授業を実施した。
- ・ 授業科目のカリキュラムマップとカリキュラムツリーを作成するとともに、入学者全員に対して楽典の課題を与えて、提出を義務付けるなど、音楽大学での学びに不可欠な基礎理論を確実に身に付けさせることとした。
- ・ 学生相談等をより速やかに対応できるように、学生サポート情報をWebでのオンライン配布とした。

### 3. 学修成果

- ・ 国内演奏旅行は、沖縄県読谷村立喜名小学校からの熱心な要請を受けて、令和3年10月、感染症対策に万全な対応に配慮しつつ実施し、現地の小学生達から歓迎され、短期大学での学びを公開の演奏会において総合的に実践することができた。
- ・ 短期大学2年次生(シンガーソングライター・アーティスト専攻4名)と大学2年次生(パフォーマンス総合芸術文化専攻7名)がライブ実践(作品発表)として、日本を代表するミュージシャンとの共演を通して、プロフェッショナルなステージ作りを実体験することができた。
- ・ 令和4年3月に卒業する短期大学生(17名)のうち就職希望者5名全員が就職した(就職率100.0%)。

### 4. 教員組織

- ・ 授業方法等の改善・向上に関して、他大学の事例等を活用するため、外部講師として上山典子氏(静岡文化芸術大学准教授)を招き、「静岡文化芸術大学における教育改革・地域連携・グローバル化の取り組み」をテーマにFD/SD研修を実施した。
- ・ 研究推進・倫理委員会を4回開催し、研究推進方策等について関係部門との連携などの検討を進めるとともに、学園ウェブサイトの「教育研究者一覧」の掲載内容の充実に努めた。
- ・ 科学研究費の採択者への研究支援を進めるとともに、教員の研究意欲の向上に努めることとした。

### 5. 施設・設備

- ・ 川越・文京キャンパスの「無線LAN整備計画」(令和3～5年度)の計画のもと、整備を進めた。
- ・ 川越と文京のキャンパス間を結ぶ情報連携システムの基幹サーバーを更新し、システムのバージョンアップを行い業務効率の向上のほか、セキュリティの強化を図った。
- ・ 7号館の空調設備更新工事及び2号館等の消火栓ポンプ、連結送水管の修繕工事等を行った。

### 6. 社会貢献

- ・ 和光市など地元及び近隣地域と連携し、オペラ彩第38回定期公演「カルメン」には、大学・短期大学・第二高校の学生・生徒・教員が出演した。
- ・ 学生をはじめ教員・研究員等による、音楽文化を地域社会に広げる企画「サタデーコンサート」を、創立50周年記念館ホールで5回開催し、多くの来場者から好評を得た。
- ・ 東京都北区において、クラシックコンサート～東京さくらトラム沿線の文化と景観を後世に残す～を、附属中・高等学校が、ユネスコパートナーシップ世界遺産トーチランコンサート協会と共催で、大学・短期大学の教員の協力により実施した。

# 〈令和3年度 事業報告書〉

[学校法人 三室戸学園]

## I 法人の概要

### 1 基本情報

- (1) 法人の名称：学校法人三室戸学園
- (2) 主たる事務所の住所：東京都文京区大塚4-46-9

### 2 建学の精神

音楽芸術研鑽の一貫教育を通じ、情操豊かな人格形成を目途とする。

### 3 学校法人の沿革

学校法人三室戸学園は、学祖三室戸敬光が昭和9(1934)年11月、東京高等音楽学院学院長在職中に私財を投じて、「東京高等音楽学院大塚分教場」を開設し、昭和13(1938)年2月に三室戸為光がこれを継承し、東京都文京区に分離独立の上、「東邦音楽学校」と改称し、昼夜二部制の音楽理論と実技の授業を行う全国最初の学校としてスタートした時に始まる。

昭和22(1947)年に東邦中学校(男女共学)を開学、翌年には東邦高等学校を開学し、普通科に加え、全国初となる音楽科を開設した。

昭和26(1951)年に東邦音楽短期大学(音楽科)を開学、昭和38(1963)年に埼玉県川越市今泉に川越キャンパスを整備し、東邦第二高等学校(普通科・女子)を開学した。なお、同高等学校は、昭和44(1969)年に普通科を音楽科に改め、平成15(2003)年に男女共学制に移行している。

昭和40(1965)年に川越キャンパスに東邦音楽大学(音楽学部音楽学科)を開学し、平成13(2001)年には東邦中学校、東邦高等学校、東邦第二高等学校を大学の附属学校とした。さらに、平成16(2004)年に東邦音楽大学大学院(音楽研究科修士課程)を開設した。

### 4 設置する学校、学部、学科

- 東邦音楽大学大学院 [音楽研究科]
- 東邦音楽大学 [音楽学部音楽学科]
- 東邦音楽短期大学 [音楽科]
- 東邦音楽大学附属東邦高等学校(全日制の課程) [音楽科]
- 東邦音楽大学附属東邦第二高等学校(全日制の課程) [音楽科]
- 東邦音楽大学附属東邦中学校
- 東邦音楽学校

5 学生・生徒数（令和3年5月1日現在）

学校名	入学定員	入学者数	収容定員	現員数
東邦音楽大学大学院	15人	13人	30人	32人
東邦音楽大学	100人	76人	420人	267人
東邦音楽短期大学	50人	13人	100人	35人
附属東邦高等学校	80人	18人	240人	65人
附属東邦第二高等学校	50人	21人	150人	95人
附属東邦中学校	50人	6人	150人	24人
東邦音楽学校	一人	一人	300人	211人

\* 東邦音楽学校の学生・生徒数は「教養科」の生徒数である。

6 収容定員充足率（令和3年5月1日現在）

学校名	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
東邦音楽大学	56.2%	51.2%	55.2%	57.6%	63.6%
東邦音楽短期大学	108.0%	100.0%	74.0%	58.0%	35.0%

7 役員の概要（令和3年5月1日現在）

(1) 定員数

理事：5人以上7人以内、監事：2人

(2) 役員の氏名

理事長：三室戸東光

理事：粕谷 宏美、三室戸元光、吉野正巳、西 修一郎

岩井 俊司（8月31日退任）佐浦 國雄（9月22日就任）

監事：上田 孝、和田 正夫

8 評議員の概要（令和3年5月1日現在）

定員数：11人以上23人以内、現員数：18人

9 教職員の概要（令和3年5月1日現在）

(1) 専任教員：68人

①大学院・大学・短期大学 50人

・教授 27人（うち特任教授21人）

・准教授 16人（うち特任准教授7人）

・講師 7人（うち特任講師1人）

②附属学校 18人（外国語指導助手1人を除く。）

・校長 2人、教頭 2人、教諭 14人

(2) 非常勤講師：144人

(3) 職員：45人（専任職員、嘱託職員、事務補佐員）

## II 事業の概要

令和3年度は、第四期中期計画が掲げる5年計画の初年度であった。令和3年度から開始した第4期中期計画（2021（令和3）～2025（令和7）年）においては、文部科学省が今後の教育の在り方として示している「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」（平成30年11月26日中央教育審議会答申）等を踏まえるとともに、私学を取り巻く厳しい環境、安定した財務基盤の構築、そして令和2年度に受審した認証評価での改善すべき事項に真摯に取り組みつつ、理事長・学長のリーダーシップの下、本学園の総力を結集して音楽芸術研鑽のための教育組織として社会に広く貢献するとともに持続的な発展を目指すこととしている。

さらに、本学園は、2028（令和10）年に創立90周年を迎えることから、「TOHO VISION 90」として、「小規模ながら確固たる個性と存在感があり、未来に向かって新しい価値を創造する学園」を実現すべき姿として掲げ、本中期計画期間終了時において、その3年後には、本学園が創立90周年を確たる存在で迎えられるよう、実行すべき項目を示している。そしてその実現のために、年度ごとに計画を立案するとともに、アクションプランとしてより具体的な行動計画書を作成して、全学をあげて取り組んでいくこととしている。

令和3年度は理事長・学長をトップとして全学的な体制により、教育の質的向上を目指す取組を様々な分野で展開した。

一方、新型コロナウイルス感染症に関しては、前年度に引き続き、その感染拡大を防止する必要があることから、様々な制約がある状況の中で、万全を期した対応策を講じつつ、対面での授業・レッスンや、演奏会などのイベントを出来る限り実施した。

## III 項目別取組状況

令和3年度に実施した取組の主な内容は、以下に示すとおりである。

### 1 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための取組

#### (1) 大学及び短期大学等の教育に関する目標を達成するための取組

##### ①多様な入学者選抜の実施と学生の確保

- ・ 学生獲得増に向けたアクションプランに基づき、行動計画（イベント年間スケジュール）を策定し募集活動を行った。
- ・ 従来の入試広報について分析を行い、より効果的な方策に努めた。
- ・ 令和2年度に受審した、大学の認証評価での改善すべき事項の、学生募集の改善については、様々な工夫を考慮するなど、検討を進めた。

##### ②教育内容・教育成果等の充実

- ・ 授業科目のカリキュラムマップとカリキュラムツリーを作成した。
- ・ 学生のインターンシップ参加率を高めるなどのため、インターンシップ受入先を1団体増加（7→8団体）した。

### ③教育の実施体制等の充実・強化

- ・ 新型コロナウイルス禍対応で得た遠隔授業のノウハウを活用し、Zoom 等を活用したオンライン授業を実施した。
- ・ 授業方法等の改善・向上に関して、他大学の事例等を活用するため、9月7日にFD研修（講師：静岡文化芸術大学上山典子准教授）を実施した。
- ・ 令和2年度に受審した、大学の認証評価での改善すべき事項の、教育研究活動の質保証の推進と、入学者増加の具体策及び財務基盤強化を踏まえた中長期的計画の策定に向けて、検討を進めた。

### ④学生への支援の充実

- ・ 入学者全員に対して楽典の課題を与えて、提出を義務付けるなど、学び方の基本を身に付けさせることとした。
- ・ 修学環境整備として、Wi-Fi エリアを11号館・12号館・16号館において拡張して使用できるように整備した。
- ・ 学生相談等をより速やかに対応できるように、学生サポート情報を Web でのオンライン配布とした。
- ・ 令和2年度に新設した「東邦令和特別奨学金」等については、前年度の実績等を踏まえ、より効果的な支援に努めた。
- ・ キャリア支援を行い、令和4年3月卒業の大学生（48名）で、就職希望の20名のうち18名が就職した（就職率90%）。また、短期大学生（17名）では、就職希望の5名全員が就職した（就職率100%）。

### ⑤国際化の推進

- ・ 「東邦ウィーンアカデミー」については、現地での研修実施に向けて、外務省の海外安全情報及びウィーンの情報調査分析し、日程調整の工夫などを行うなどして、ギリギリまで実施可能性を探ったが、最終的に現地での研修を断念せざるを得なかった。そのため、現地で研修の代替えとして、東邦ウィーンアカデミーの教授陣（ウィーン国立音楽大学教授など）の協力のもと、ビデオレッスンをはじめレポート課題や演奏動画を記録したビデオ講座等を実施した。そして、令和3年度末で卒業する学生には、国際交流推進特別奨学金の給付を行った。

また、海外演奏旅行についても、ハンガリーへの渡航ができないことから、国内で演奏会場が確保できるリゾナーレ八ヶ岳において、10月に2泊3日でリハーサル・本番収録を行いその収録VTRを、ハンガリー現地及び在日大使館に送り、好評をいただいた。

## (2) 附属学校等に関する目標を達成するための取組

### ①生徒及び受講生の確保

- ・ 学生獲得増に向けたアクションプランに基づいて、「令和3年度生徒獲得増に向けた行動計画」を策定し、募集活動を行った。

### ②附属学校における教育の充実

- ・ 東邦中学校と東邦高等学校の合同編成や第二高等学校全学年の合同編成によりウィンドオーケストラを実施するなど、実践的な授業を行った。
- ・ 少人数制による One to One のきめ細かい教育の実践に努めた。また、大学、短期大学の教授陣による個人レッスンを実施した。

### ③高大接続と相互連携の強化

- ・ 本学の2つの附属高等学校の生徒を対象に「体験授業」を実施した。
- ・ 附属高校と大学及び短期大学が相互の連携強化ができるよう、責任者会議を2回開催した。
- ・ 大学及び短期大学の教員が附属高等学校に赴き、附属生徒を対象にしたオープンキャンパスにおいて、本学の教育体制等について説明を行った。

## (3) 研究に関する目標を達成するための取組

### ①研究の推進と研究水準の高度化

- ・ 令和4年度の科学研究費「若手研究」で、「ドイツ語のリズム規定における『弱化』の知覚と生成」(粕谷麻里乃准教授)が採択された。これを機に、教員の研究意欲等を向上させることとし、研究等の支援を行うこととした。
- ・ クラウドファンディングの仕組みの調査を行い、今後、研究とのマッチングについて検討を行うこととした。

### ②研究推進体制等の充実

- ・ 研究推進・倫理委員会を定期的開催(4回)し、研究推進方策等について、関係部門との連携などの検討を進めた。

### ③研究成果の積極的な公表

- ・ 教員の研究成果を「研究紀要」(第29号)として、刊行した。
- ・ 学園ウェブサイトの「教育研究者一覧」について、掲載内容の充実に努めた。

## (4) 社会連携及び社会貢献に関する目標を達成するための取組

### ①社会連携事業の推進

- ・ 和光市など地元及び近隣地域と連携し、オペラ彩第38回定期公演「カルメン」

(R3.12) に、大学・短期大学・第二高校の学生・生徒、教員が出演した。

- ・ 「埼玉東上地域大学教育プラットフォーム(TJUP)連携協定(H30年8月締結)に基づき、TJUP 県西部大学連携リレー講座や TJUP 地域交流会公開講座を実施した。

## ②社会貢献活動の推進

- ・ 大学及び短期大学のカリキュラムに地域への貢献をテーマとする科目として「地域創造」を設定した。
- ・ 「埼玉県ふじみ野市との基本協定」(H22年締結)に基づき、ふじみ野市小学校音楽鑑賞教室を開催(6月8・9日)した。
- ・ 短期大学の学生が行っている、国内演奏旅行については、沖縄県読谷村立喜名小学校からの熱心な要請があり、感染症対策を万全な対応に考慮して10月に実施した。現地の小学生達から歓迎されるとともに、楽しんでいただける演奏会を開催することができた。
- ・ 附属中学校・高等学校は、ユネスコパートナーシップ世界遺産トーチランコンサート協会と共催で、東京都北区「北とぴあ」において、～東京さくらトラム沿線の文化と景観を後世に残す～という副題で、クラシックコンサートを開催(10月29日)した。

## 2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための取組

### (1) 組織運営の改善に関する目標を達成するための取組

#### ①組織運営機能の強化

- ・ 大学(短期大学、附属学校等を含む)の円滑な運営を図ることを目的とする「責任者会議」を開催(7月19日・12月21日)し、理事長・学長の講話の後、各部門の情報共有と連携強化促進に努めた。
- ・ FD/SD合同研修会(9月7日)(講師：静岡文化芸術大学上山典子准教授)を開催し、他大学の事例等を活用することにより授業方法等の改善・向上に資することとした。
- ・ 中堅・若手事務職員SD研修会(9月7日)を実施し、「大学マネジメントにおける教職協働」をテーマでの講話の後、グループ別に討議を行ったうえで発表会を行った。

#### ②教育研究組織の充実・強化

- ・ 組織規程第15条に掲げるセンター等に関して、設置目的、組織及び業務等を明確に定めた。
- ・ 後援会の総会に本学の副学長・学生部長と関係役職員が出席し、円滑な協力関係の維持強化を図った。

### ③事務等の効率化・合理化の推進

- ・ 事務の合理化・効率化を推進する観点から出勤簿やレッスン記録簿をオンライン化し、業務効率向上を図るほか、会議資料のペーパーレス化に努めた。
- ・ 情報システム化を推進する観点から、専任教職員に Google アカウントを付与し、クラウドでの情報共有化を図った。
- ・ 学園ウェブサイトのカスタマイズを行い、学校基本情報や関係規程等を常時閲覧できるようにした。

## (2) 財務内容の改善に関する目標を達成するための取組

### ①学生生徒等納付金、外部資金及び寄附金等の収入の確保

- ・ 部門別の学生生徒等納付金データを参考に、学生募集活動の基礎資料として活用した。
- ・ クラウドファンディングの仕組を調査（研究推進・倫理委員会と経理本部が情報共有）し、本学の研究等への活用について検討を継続することとした。
- ・ 令和2年度に受審した、大学の認証評価での改善すべき事項の、中長期的な財政計画の策定・実行など、安定した経営基盤の確立に向けて、様々な観点から調査を行うなど検討を進めた。

### ②経費の抑制

- ・ 近年の決算分析等を基に、関係部署において、真に必要とする経費執行の精査を行い経費節減に努めた。
- ・ 各部署に対して、次年度予算の執行に際しては、その必要性を様々な観点から確認を行うことを求め、状況によっては、執行中止・減額することを通達した。
- ・ 前年度実績を基に、経費執行の精査を行い、管理的経費の節減に努めた。

### ③資産の運用管理の改善

- ・ 複数の金融機関による引き合いの実施など、資金運用計画を作成し、効率的かつ効果的に資金運用を行った。
- ・ 本学園の資産を分析し、利用頻度が低く、収益性の低い資産について、売却等の検討を行った。

## (3) 施設設備整備、安全管理及び法令順守等に関する目標を達成するための取組

### ①施設設備の整備・活用等

- ・ 川越・文京キャンパスの「無線LAN整備計画」（令和3～5年度）を作成し、その計画を基に、順次整備を進めた。
- ・ 川越と文京のキャンパス間を結ぶ情報連携システムの基幹サーバーを更新し、システムのバージョンアップを行い業務効率の向上のほか、セキュリティの強化を

図った。

## ②安全管理の充実・強化

- ・ 理事長を議長とする防火防災対策会議は、新型コロナ感染症対応のため、メールによる報告とした。なお、地震等大規模災害を想定した避難訓練等は、文京キャンパス（9月7日）及び川越キャンパス（11月24日）において実施した。また、川越キャンパスにおいて、防災備品を増加し充実を図った。
- ・ 学生・生徒及び教職員等に、三密の回避、マスクの着用、手洗いの励行等の新型コロナウィルス感染症対策を徹底させた。そして、アクリルパーティション、サーキュレーター、アルコール消毒の設置を増やすほか、ワクチン接種を推奨し、教職員のワクチン接種率は、90%以上となっている。
- ・ 身体障がい者や高齢者等の目線からスロープや階段手摺等の点検を行い、すべりやすい箇所ですべり止めの対策工事を行った。また、川越キャンパスの構内案内看板を、視認性の高い看板に交換した。

## ③法令順守の徹底等

- ・ 学生の法令遵守に対する意識涵養のため、授業において、研究倫理教育を行い、意識向上のための教育指導等を行った。
- ・ 専任教職員を対象にコンプライアンスに関する研修として、教員オリエンテーションの際に実施した。
- ・ 理事長・理事と監事との連絡会を開催し、意見交換を行った。また、監査結果や監事意見を踏まえ、指摘された課題等についての改善に努めた。

## （４） 自己点検・自己評価及び情報公開等に関する目標を達成するための取組

### ①自己点検・自己評価の充実

- ・ 令和2年度に実施した本学の教育研究等について自己点検・自己評価を行った。
- ・ 令和5年度に予定する短期大学機関別認証評価の受審に向けて規程等を点検し、現状に則した見直し等を進めた。

### ②情報公開及び情報発信の推進等

- ・ 本学園の教育情報及び財務情報等をWebにより公開（6月）した。
- ・ 学園ウェブサイトの掲載情報を点検し、掲載内容を充実させるとともに、学園ウェブサイトの操作性やデザインの魅力性等の観点から改善に努めた。

令和3年度 主な演奏会等実施一覧

日程		演奏会名	場所	開催状況
6月8日	火	ふじみ野市小学校音楽鑑賞教室	グランツザール	開催
6月9日	水			
6月12日	土	第10回北関東甲信越音楽系高等学校演奏会	グランツザール	開催
7月11日	日	定期研究発表演奏会(ソロの部)	グランツザール	開催
9月11日	土	2音大クラシックコンサート	ウエスタ川越	中止
10月9日	土	東邦ミュージックフェスティバル2021	東邦音楽大学 川越キャンパス	開催
10月10日	日			
10月29日	金	東邦音楽大学附属東邦中学校・東邦高等学校 クラシックコンサート	北とぴあ つつじホール	開催
11月12日	金	第218回定期研究発表演奏会(ウインドオーケストラの部)	ウエスタ川越 大ホール	開催
11月23日	火	第12回音楽大学オーケストラフェスティバル	ミューザ川崎	開催
11月24日	水	Konzertfach(演奏専攻)学生による演奏会	グランツザール	開催
11月27日	土	第219回定期研究発表演奏会(合唱の部)	グランツザール	開催
12月4日	土	第220回定期研究発表演奏会(オーケストラの部)	和光市民文化センター サンアゼリア 大ホール	開催
12月18日	土	東邦音楽大学大学院 1年生演奏会	グランツザール	開催
12月18日	土	オペラ彩主催 第38回定期公演 オペラ「カルメン」	和光市民文化センター サンアゼリア 大ホール	開催
12月19日	日			
1月22日	土	TOHOコンサート2022 (陸上自衛隊東部方面音楽隊&東邦音楽大学ウインドオーケストラ)	グランツザール	中止
1月23日	日	第18回日本管弦打楽器ソロ・コンテスト受賞記念演奏会	グランツザール	中止
2月12日	土	東邦音楽大学大学院 学位審査修了演奏会	グランツザール	開催
2月13日	日			
2月26日	土	第15回 トライアルコンサート～オーケストラとの共演～	グランツザール	開催
3月12日	土	東邦音楽大学・東邦音楽短期大学 卒業代表演奏会	グランツザール	開催
3月26日	土	音楽大学フェスティバルオーケストラ	ミューザ川崎	開催
3月27日	日	音楽大学フェスティバルオーケストラ	東京芸術劇場	開催

フォトギャラリー

6月12日	土	第10回 北関東甲信越音楽系高等学校演奏会
-------	---	-----------------------



7月11日	日	第217回 定期研究発表演奏会[ソロの部]
-------	---	-----------------------



10月9日	土	東邦ミュージック・フェスティバル
10月10日	日	



10月27日	水	東邦音楽短期大学 卒業記念修学演奏旅行[沖縄県読谷村立喜名小学校]
--------	---	-----------------------------------



10月27日	水	ハンガリー配信のための公開演奏収録[星野リゾートリゾナーレ八ヶ岳]
--------	---	-----------------------------------



10月29日	金	東邦音楽大学附属 東邦中学校・東邦高等学校クラシックコンサート
--------	---	---------------------------------



11月12日	金	第218回 定期研究発表演奏会[ウインドオーケストラ]
--------	---	-----------------------------



11月23日	火 (祝)	第12回 音楽大学オーケストラ・フェスティバル
--------	-------	-------------------------



11月24日	水	Konzertfach(演奏専攻)学生による演奏会
--------	---	---------------------------



11月27日	土	第219回 定期研究発表演奏会[合唱の部]
--------	---	-----------------------



12月4日	土	第220回 定期研究発表演奏会[オーケストラの部]
-------	---	---------------------------



12月18日	土	東邦音楽大学大学院 1年生演奏会
--------	---	------------------



2月12日	土	東邦音楽大学大学院 修士課程学位審査修了演奏会
2月13日	日	



2月26日	土	第15回 トライアルコンサート～オーケストラとの共演～
-------	---	-----------------------------



3月12日	土	東邦音楽大学・東邦音楽短期大学 卒業代表演奏会
-------	---	-------------------------

